

「子ども家庭福祉」問 20

@2020sakurakosensei 転載禁止

C 死産率は、1960（昭和 35）年前後をピークとし、多少の増減はあるものの減少する傾向にある。

=○

<根拠となる資料> 「平成 29 年人口動態統計」（厚生労働省）

表番号 7-1 「年次別にみた死産数・率（出産千対）及び死産性比」（編集しました）

平成29年 人口動態統計			
上巻 死産 第7. 1表 年次別にみた死産数・率			
注：昭和19～21年は戦災による資料喪失等資料不備の 昭和22～47年は沖縄県を含まない。			
年次	死産率		
1949	66.7	1984	46.3
1950	84.9	1985	46
1951	92.2	1986	45.3
1952	92.3	1987	45.3
1953	93.8	1988	43.4
1954	95.6	1989	42.4
1955	95.8	1990	42.3
1956	97.1	1991	39.7
1957	101.2	1992	38.9
1958	100.7	1993	36.6
1959	100.6	1994	33.5
1960	100.4	1995	32.1
1961	101.7	1996	31.7
1962	98.8	1997	32.1
1963	95.6	1998	31.4
1964	89.2	1999	31.6
1965	81.4	2000	31.2
1966	98.2	2001	31
1967	71.6	2002	31.1
1968	71.1	2003	30.5
1969	68.6	2004	30
1970	65.3	2005	29.1
1971	61.4	2006	27.5
1972	57.8	2007	26.2
1973	52.6	2008	25.2
1974	51.3	2009	24.6
1975	50.8	2010	24.2
1976	52.7	2011	23.9
1977	51.5	2012	23.4
1978	48.7	2013	22.9
1979	47.7	2014	22.9
1980	46.8	2015	22
1981	49.2	2016	21
1982	49	2017	21.1
1983	45.5		

このグラフにあるように、1960 年前後（黄色部分）をピークとして、多少の増減があるもののわが国の死産率は減少しています。これはわが国の保健対策が功を奏していることと、何より日本人の栄養状態、衛生状態、医療体制などが 1960 年前後に比べ、各段に改善されていることによります。

【講評】

この問題でひっかかったかたは、「1960 年前後」というところではないかと推察されます。なんとなくもっと以前（たとえば戦中など）のころのほうが、死産率は高かったのではないかと感じますよね。

とはいえこちらのグラフをご覧くださいと選択肢の通りであり、1961 年を最大値として、多少の増減を繰り返しながら、最新の 2017 年=21.1 に至るまで減少傾向にあることは間違いありません。

【参考】

[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450011&tstat=000001028897&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=000001053058&tclass2=000001053061&tclass3=000001053067&result\\_back=1](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450011&tstat=000001028897&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=000001053058&tclass2=000001053061&tclass3=000001053067&result_back=1)

・死産 …… 妊娠満12週(妊娠第4月)以後の死児の出産

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$$